

11月25日の澁谷内閣審議官による記者ブリーフ概要

今回は、ソルトレイクシティ会合最終の2日間について説明する。23日は、11時過ぎまで長くやった。午前中は国有企業をみっちり行ったが、相変わらず意見の隔たりが大きく、強い反対意見が出ている状況に変わりはない。とはいえ、首席交渉官会合では中身のつこんだ議論がなされた。論点を絞って閣僚に上げないといけないという所は共有したということだろう。引き続き、シンガポール直前まで、首席交渉官が関与しながら閣僚会議に示す論点整理を行い、閣僚に論点整理ペーパーを示せるように作業することになった。

この後、議題にはないが、政府調達について報告があった。政府調達は分科会をがんばり、若干論点は残っているが、テキスト上は、大きな論点はほとんど収束に向かったとのことである。別途、市場アクセスの交渉は続いている。

引き続きTBTの議論が行われた。これを首席交渉官会合で取り上げたことは少なく、分科会も少ないこともあり、今回は時間をかけて首席交渉官で議論した。SPS同様、収束に向かいつつある分野である。各国の利害に絡む各論より、他の協定との関係や法技術的な書き振りの問題といった学術的な論点が残っていたが、多少時間をかけて議論をした。

夜は金融サービスを議論した。分科会で予想以上の論点が残っており、首席交渉官会合で丁寧な議論した。難航分野に比べると、それほど国の利害に直接かかわる部分でなく、技術的な部分が残っていたということである。

残りは、法的・制度的事項の宿題返しを行った。

24日は、1日かけて知財の予定だったが、3日目の投資の宿題返しを行った。ISDSなど大きな論点はあるが、そうした大きな論点以外のものについては、整理ができた。投資は、もともと投資協定を単独で結ぶくらいの分野なので、分量が多い章だが、シンガポールで上げるべき大きな論点以外は相当整理されたのは、大きな進展と言える。

その後夜まで、知的財産の議論が行われた。知的財産は、各国で関心が高く、センシティブな分野で、具体の項目について申し上げにくい分野である。相当程度の論点が残っているものについて、ひと通り議論した。そして、シンガポールの閣僚会議に上げる論点を相当絞らないといけないという点は一致した。分科会が現地まで26日まであるので、あと2日間がんばれという指示が首席交渉官会合の結論である。どこまで共通のルールとするのか、という議論も含めて、絞り込みの作業が引き続き行われるだろう。

国有企業についても前日の宿題返しがあった。引き続きシンガポールまで首席交渉官が関与して論点整理を行うこととなった。

環境は、分科会で議論したら論点が十分整理できず、首席交渉官からさらに詰めるよう指示があった。

最終日は9時頃終了。終わった時の雰囲気は、かつてなくいい雰囲気だったようだ。シンガポールでまとめるべき残りの論点を整理しよう、首席交渉官同士よく連絡を取り合おうという話になったとのことである。

(以上)